平成29年度

研修集録

秋田県立横手高等学校

新高校学習指導要領を見据えて

校長　佐々木　均

平成３０年２月１４日、文部科学省は２０２２年度から順次実施される高校の学習指導要領の改定案を公表した。予測が難しい時代に、自ら考え、行動できる人材を育成するため、思考力や表現力を重視し、討論などを通じた「主体的・対話的で深い学び」を全教科に導入するなど、大幅な見直しとなっている。また、自ら課題を発見する「探究」の創設や「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」に名称を変更するなど、課題を見つけて探究するプロセスをさらに重視するとしている。

本校における授業改善を中心とした様々な研修も、これからの時代を生きる生徒に求められる資質・能力の育成という視点を重視してきたはずである。また、今年度で県の指定から３年が経過したキャリア教育実践モデル校事業においても、「学習課題の明示と、課題解決に向けた主体的・対話的で深い学びを通して、論理的な思考力や自分の考えを的確に表現する力を身に付けさせる授業の実践」を共通課題とする授業改善が、大きな柱となっている。具体的には、生徒の学習意欲を高めるための効果的な学習課題の明示、生徒の思考を促しながら主体的で深い学びにつながる発問の工夫、学習内容の定着や学力向上の実感に結び付く振り返りの徹底の三点を手立てとして、日々の授業で実践してもらった。その成果は徐々に表れていると考えるが、この取り組みを進める中で生徒の探究する姿勢がさらに育まれると期待される。

また、今年度の職員による学校評価の教科指導について注目すると、「十分達成」「ほぼ達成」と実感している職員の割合が昨年度を上回った項目は、「生徒は授業に満足し、学力向上は達成されている」、「５５分授業の有効活用」のふたつであった。この教師自らが感じる手応えは大切にしたい。一方「生徒の興味や意欲を引き出す工夫はされている」、「生徒による授業評価をもとに授業力向上に努めている」という項目では「今後も改善の余地がある」と評価した人の割合が比較的高い。私たちは日々の取り組みに自信を持ちつつも、具体的に何をどう改善していくか、生徒の声にも謙虚に耳を傾けながら、各教科でさらに具体的に研究を進めていきたいものである。

「大学入試が変わらなければ、高校の授業は変わらない。」私たち高校教師は心の中でたびたびこのように呟いてきたように思う。しかし、その中に全く逃げがなかったか、厳しく自問する必要もあるのではないか。高校の授業や生徒の学習活動が本気で変われば、旧態依然の大学入試では、大学そのものが評価されない時代が来るのではないか。現に、新しい学習観による大学入試の改革は着実に現在進行形で進んでいるように思われる。教師自身も「深く学び、探究する」ことが必要になろう。

最後になるが、校内相互授業参観期間に授業を公開してくださった先生方、研究成果を寄稿してくださった先生方、有意義な各種研修を企画してくださった先生方、そしてこの１年間の研修成果をまとめ、集録という形にしてくださった研修部の先生方をはじめ関係の皆様に厚くお礼申し上げる。この集録が各位の有意義な研修成果の共有に寄与し、次のステップに向けて活用されることを願っている。

目　次

＜巻　頭　言＞　　校 長　　佐々木　均

＜校内相互授業参観＞
平成２９年度校内相互授業参観　……研　修　部…… 1

＜公開研究授業＞
（１）　国　語　科……古谷　祥多…… 6
（２）　数　学　科……田中　武夫…… 9
（３）　英　語　科……大塚のぞみ……13
（４）　理　　科……小野寺　庸……15
（５）　地歴・公民科……打矢　泰之……19
（６）　体　育　科……加藤･目黒……23
（７）　芸　術　科……杉渕　拓夫……29

＜年次研修＞
高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて……大塚のぞみ……33
高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて……能美　政通……40
高等学校５年経験者研修講座を受講して……藤田　香苗……46
高等学校３年経験者研修講座を受講して……古谷　祥多……48

＜実践報告＞
キャリア教育実践モデル校報告……菅原　敏紀……50

＜校外事業報告＞
平成２９年度高校生国外派遣交流事業（大韓民国ソウル特別市ソウル高校訪問）
……武藤　雅子……52

＜その他＞
平成２９年度第１回　秋田県１２高校進学指導協議会 ……鈴木亘ほか……58
平成２９年度第２回　秋田県１２高校進学指導協議会 ……鈴木亘ほか……61
あをくも人材育成事業　東北大学訪問 ……高見　直子……65

平成２９年度　校内相互授業参観

研修部

１　期　　間　　第１回　平成 29 年 6 月 20 日（火）～ 6 月 30 日（金）（９日間）
　　第２回　平成 29 年 10 月 31 日（火）～ 11 月 13 日（月）（９日間）

２　時　　間　　期間内の１校時から６校時まで

３　対　　象　　全教員

４　目　　的　　・教員が互いに授業を参観し、生徒の学習意欲を高める授業づくりを目指す。
　　・教科を越えて意見を交換し合うことにより、さまざまな視点から目標や課題を見いだす。
　　・他の授業における生徒の状況を観察し、生徒個々の指導に活かしていく。

５　参観方法

（１）期間前・期間中

授　業　者	参　観　者
①授業実施 ②授業者は提出された感想カードを読み、授業の改善に努める。	①授業参観 ②授業後、「感想カード」に感想を記入し、コピーして授業者と研修部に提出する。

平成27年度第１回校内相互授業参観週間
授　業　参　観　カ　ー　ド

授 業 者	先生	科目名	
ク ラ ス	ＨＲ	参観日	月　日（　）＿＿校時
参観者名			
学習課題の提示・確認			
思考判断			
言語活動			
板書の工夫			
そ の 他			

※　参観は２時間以上とし、何時間参観してもよい。

※　授業全体を通して参観することを原則とするが、部分参観も可とする。

（２）期間終了後

①研修部が「授業の感想」をとりまとめ、職員会議等で報告する。

②年度末に研修集録に参観授業数、感想等をまとめて掲載する。

６　そ の 他　　期間終了後、全教員にこの企画に関するアンケートを実施し、次年度実施への改善を図る。

平成29年度校内授業参観　アンケート集計

	参観日	参観教科名	参観科目名	感想
1	10月30日	保健体育	体育	【学習課題】ホワイトボードに明示されていた。1時間で学習する大きな目標と各パートでの小さな目標が分けて示されており、授業の道筋が理解しやすくなっていた。 【発問の工夫】小グループで話し合いをさせながら発問に答えさせており、工夫されていた。 【振り返り】最終的に申し合わせ軽視で行っていたミニゲームを実践形式にして、学んだ事を状況に応じて行わせていた。1ゲーム毎にチームが集まって言葉を交わし、反省、評価をしており、振り返りがうまくなされていた。
2	10月31日	芸術	美術Ⅰ	【学習課題】時間等の見通しを説明していて、わかりやすい。「なぜ～」「どうやって～」という問いかけ型の課題にするとなおよい。 【発問の工夫】生徒とのコミュニケーションの中で答えを引き出す工夫がされている。答える前に相談する時間をとってもよいと思った。絵や塗り方については、「そうすれば正解」というものがないので、生徒の思考がとても深まっているのを感じた。 【振り返り】振り返りシートが活用されていた。自分の授業でも利用したいと思った。 【その他】抽象画という難しい題材に一所懸命取り組んでいる生徒の姿が素晴らしかった。また、先生が丁寧に机間指導をしていて、わからない生徒にしっかり向き合っていて、少人数クラスの利点が活かされていた。また、小中学校でやってきたことを活かした説明の仕方がよいと思った。つい、高校から新しいことを教え込むという意識を持ちがちなので、中学校との連携という点で参考になった。
3	10月31日	芸術	美術Ⅰ	【学習課題】学習課題が「版木を完成させ、試し刷りをする」となっていたが、昨今の流れとしては「～するためにはどのように工夫すればよいだろうか」のような書き方が良しとされるのでは、と思った。 【発問の工夫】生徒全体に対し、また個人に対して、それぞれの活動を行うにあたって、必要かつ意欲につながる発問がされていた。生徒もどうすれば良い作品制作ができるかを真摯に、かつ主体的に考え活動していた様子が見てとれた。 【振り返り】毎時間の最後に「学習記録」を記入させることで、その時間の振り返りはもちろん、単元の振り返りもできることに気づかされ、唸らされた。 【その他】「こすれば消える」などといったペンが幅をきかす昨今、やり直しがきかない、取り返しのつかない言わば一回性をその制作過程中に内包する版画は、現代の子供達がその機会を失いつつある「一回性にかける集中」を要求する営為であるだけに、貴重名活動になるのだなと感じた。
4	10月31日	地歴公民	日本史B	【学習課題】強調して示されていた。（大きな声、効果的なタイミング）→冒頭の生徒とのやりとりに関係して示され、効果的。 【発問の工夫】法然が批判された理由を考えさせる場面、声かけをしなかったのがよかった。生徒同士のやりとりを大切にしていた。5校時という生徒の集中力が落ち気味の状況を、先生の声かけや授業形態の工夫等でうまく授業に乗せている。 【振り返り】なぜ、かなり前半スピードアップしたのに、最後は昨日と同じ位の処までの進度になったのか。→オープンクエスチョン3つは、かなり時間に気をつけないと厳しい。 【その他】昨日に比べて、冒頭部分の生徒とのやりとりがスピードが上がっている。→写真の活用。先生のフランクな語り口と落ち着いた様子から、生徒が安心して自分の意見を出せる雰囲気になっている。板書、説明のスピードが速く、生徒の動きを見ていると、そのスピードにやや後れている人がいたように思う。法然が批判された理由を挙げさせた後、その内容を今の横高生に合った形で説明したのが、生徒の関心を高めた。板書が美しく良くまとまっている。前時を受けて、すぐに改善されている点が素晴らしかった。
5	10月31日	地歴公民	日本史B	【学習課題】単に学習課題を提示するだけでなく、学習課題に対する予想を立てさせている。この手法は参考になった。生徒に本時の目当てを明確に持たせることができる。 【発問の工夫】法然の思想だけではなく、法然が生きた時代全体をとらえさせようとする発問があった。時代背景から、なぜ法然の思想が生まれ、発展していったかが考察できる工夫がされている。 【振り返り】法然への批判や親鸞の教えになぜ人々が救われたのかを考えさせることで本時の学習課題の確認になっているはず。 【その他】なぜ悪人こそ救われるべきなのか？　この点を思考、発表させることが親鸞の教えのポイント。現代感覚と異なる点を理解させている。思考させる場面が多かったので時間不足になってしまったと思う。しかし、これはやむを得ないと思う。時間内に納めるならば、ペアワークする発問を2つにするのもありかと思う。
6	10月31日	地歴公民	日本史B	【学習課題】丁寧にこれまでの学習内容を振り返りながら、なぜ鎌倉期に法然、親鸞の教えが人々に受容されたのかを適切に提示していた。 【発問の工夫】発問はよく工夫されていた。 【振り返り】時間がなく、2人の生徒の発言で終わってしまい、もう少し時間があれば、今日の学習課題に対する振り返りができたのではと思う。 【その他】ペアワークを多用し、思考を深めさせようとする工夫が見てとれた。知識の定着を図りながら、歴史事象を通して生徒に深く考えさせようとする姿勢は十分に理解できた。ただ悪人の定義がややあいまいであったため、生徒が表層的な理解にとどまることがないよう、この後で補足説明をしてもらえたらと思う。
7	10月31日	地歴公民	日本史B	【学習課題】学習課題について、学習前の予想を書かせるなど、学習後のより正しい解答が印象づき、効果的だと思った。 【発問の工夫】生徒から答えが出なかった時の問いにより、生徒を別の視点へと導くことができていてよかった。それぞれ問いについてペアで話し合うことでより理解が深まっていると思った。 【その他】板書が整っており非常に見やすかった。授業の流れがスムーズで、話に入っていきやすかった。
8	10月31日	地歴公民	日本史B	【学習課題】「なぜ～」という課題の提示の仕方が興味が湧いてよかた。予想を立てさせていたので、隣同士で確認させる時間があるとよいと思った。 【発問の工夫】発問が課題に向かって段階的に迫っていくもので、よいと思った。「法然の生きた時代に何があったのか」については、発問する時にあまり説明を加えなくても、すぐ考える時間に入ってもよいのではないかと思った。 【振り返り】振り返り時間を毎回確保するのは難しいが、私自身もできる限り取り入れていきたいと思う。 【その他】生徒とのやりとりの中で授業が進められていて、温かい雰囲気だった。生徒がまちがえるのを怖がっているところがあるので、そういった思いを消してあげる手立てがあればと考えた。発問した後にあまり説明を加えず、考える時間を多くtごった方がよいのではないかと思った。2人ペア、4人グループなど、様々な話し合いの形態があるとよいと思う。

9	10月31日	地歴公民	日本史B	【学習課題】最初に提示された学習課題に沿って授業が進められていたので、生徒もやるべきことを明確にして授業に取り組めていた。 【発問の工夫】平安時代の浄土教について、阿弥陀堂が建立されたという点から何が分かるのか、貴族や地方豪族などの階層にある程度限定されてしまう面があったことなどを生徒に気づかせる発問があるともっとよかったと思う。 【振り返り】時間の関係で振り返りまで入れなかったのが残念であった。ただ、導入時に生徒に記入させていた「授業前の予想」が最後の振り返りにつながってくることは想定できた。その点が参考になる取り組みだったと思った。 【その他】浄土宗の普及した当時の時代背景について「鎌倉幕府成立」という点にこだわりすぎている回答が多く見られたのが気になった。民衆レベルにおいては、幕府の成立によってもたらされる税制などの変化や生活様式の変化などはほとんどなかったと思う。戦乱や飢餓などに生徒がもっと気づいてくれればと感じた。なぜ法然は「旧仏教」から批判されたのかについて「旧仏教」の解釈が生徒によってまちまちだったのかもしれない。平安時代の浄土教も、旧仏教として認識している生徒もいた。この点を最初に明確にした方がよかったのかもしれない。全体的には生徒が楽しみながら学習している点が非常に良かったと思う。
10	10月31日	地歴公民	日本史B	【学習課題】授業の始めにしっかりと確認され、生徒達も見通しをもって授業に参加できたと思います。細かいことですが、板書の「学習課題」とプリントにあるのとが異なっていましたので、文言を統一して良いのかなと思いました。 【発問の工夫】早々に学習課題に対する「授業前の予想」を記入させることで、生徒の授業に参加する意識、集中力も高まっているように感じた。 【振り返り】プリントにある「まとめ」の発問まで進めなかったが、本時の盛りだくさんな授業内容を考えると、致し方ないように思う。 【その他】自分が受けていた日本史の授業を思い返すと、歴史の「流れ」に対する理解度が格段に上がるような工夫がされた授業である、と感心させられた。また、「進度の確保」と「生徒の発問」を、受験科目の授業として両立されていたことにも感心させられた。
11	10月31日	地歴公民	日本史B	【学習課題】学習課題が黒板にきちんと提示されていた。 【発問の工夫】具体的な発問は学習課題に至るための効果的な発問であると感じた。また、質問をかみ砕いて考えやすいようサポートしていたと思う。 【振り返り】時間が足りなくて、十分に振り返りができていなかったが、宿題や次時での振り返りでもいいのではないかと思った。 【その他】プリントに沿って進む授業であったが、単なる穴埋め授業ではなく、様々な考察を含んだ授業構成になっていた。「宗教の教え」の意味を「教える」のではなく「気づかせる」よい授業だったと感じた。勉強になった。
12	11月8日	理科	化学	【学習課題】本時の授業でやるべきこと、実験や学習活動のねらいとするところが明確に示されていた。 【発問の工夫】授業時間の関係で発問③を生徒に考察させて発表させる時間が持てなかったようであったので、これができればもっと良かったと思う。 【振り返り】授業プリントの最後に反省・感想をまとめることによって生徒も振り返りがしやすかったと思う。 【その他】正確に実験を行うことの難しさや重要性を生徒が実感することができたのではないかと思った。また、板書についても、前回までの確認から授業の流れに沿って整然とまとめられておりわかりやすかった。
13	11月8日	理科	化学	【学習課題】明確になされていた。 【発問の工夫】何を聞いているのか明確に分かる発問の仕方であり、大部分の生徒も答えが分かっているようであったが、生徒側で遠慮しているようだった。3組は私の授業でも常に生徒から声を発するように工夫しているが、なかなか出てこない状況である。他クラスでは同じ発問の仕方でも多くの反応が返ってくるので、3組は違うやり方が必要なのかなと思う。3組で、このようにして生徒から声をひきだそうとするときの留意点を知りたい。 【その他】さいごの方に「種明かしは次回」という部分があった。本時の内容を振り返るという点では本時のうちにその答えも明かすべきではと思ったが、次回にまわして復習させるという点ではこの方法もいいと思った。残り時間が少なくなった場合は、無理矢理この時間で完結しないで、次回きちんと整理することも大事である。
14	11月8日	理科	化学	【学習課題】学習課題が黒板にもプリントにもきちんと提示されていた。 【発問の工夫】前時の復習をしつつ、本時のデータ処理に必要な要素をきちんと確認していた。 【振り返り】本時の結果の振り返りだけではく、次時の学習課題につながる振り返りであった。興味深い展開だった。 【その他】最後に実際の数値と計算値がずれる理由を考察させる展開がとても興味深く、面白かった。答えに至ったかどうかはわからないが、後ろの席の生徒は「何でだろう？」と一生懸命考えていた。本校の実験設備、備品のお粗末さを改めて痛感した。もっと大きい水槽とメスシリンダーが有りさえすれば、もっと楽に、正確に実験することができたのにと感じた。粗末な実験道具で授業を成り立たせるため、いろいろと工夫されているのがよくわかった。勉強になった。
15	11月8日	理科	化学	【学習課題】しっかりと提示されていた。 【発問の工夫】一部分だけの参観で場面に立ち会えなかった。 【その他】実験中も注意点を確実に確認させており、実験がスムーズに行える配慮がされていた。分子量を求める考察の際、単位に注意することをしっかり意識付けすることができたと思う。
16	11月10日	国語	国語総合（現代文）	【学習課題】適切でした。 【発問の工夫】発表しやすい雰囲気でした。 【その他】お互いに意見を言い、共有したり戦わせたりすることにあまり抵抗を感じていなくて、活発な雰囲気に満ちていた。授業の中～後半で、思考が途絶えずに活発化するのはすばらしいと思いました。
17	11月10日	国語	国語総合（現代文）	【学習課題】提示の仕方はよいが、時間がかかりすぎかと思った。 【発問の工夫】形式段落の関係性をつかむ例として「じどう車くらべ」を使ったのがよい。なじみ深い。流れをつかんだ発問ができている。 【その他】生徒とのやりとりが丁寧。指示等がかなりスピーディだが、生徒はその流れに乗って動けている。連続で本文を読む活動は、生徒に集中力と自己有用感を与えて良い。全員が集中して前向きに活動に取り組んでいる様子に驚いた。先生の人柄、授業研修経験等が生かされた授業だったと思います。

18	11月10日	国語	国語総合（現代文）	【学習課題】課題提示に致るまでの過程がよく練られており、活動的でよい流れだと感じた。一方で、提示までの時間が少し長いように感じられた。 【発問の工夫】高等までの発問と板書による発問が、目的によって使い分けられており、わかりやすいと思った。 【その他】明るく元気のあるクラスの雰囲気を活かすとともに、効果的に引き出していたところがよいと思った。課題設定は評論を読む上で妥当な内容である。できれば導入をもっとコンパクトにして、展開なしでしっかりと時間がとれるとよいと思った。
19	11月10日	国語	国語総合（現代文）	【学習課題】学習課題の「具体例」を生徒から引き出すことができていた。時間が押し気味になったのはなぜでしょう。 【発問の工夫】「思い込み」をイメージさせやすくするために、前もって体験させておいたのはとてもいいと思いました。 【その他】生徒との信頼関係が築かれていると感じました。
20	11月6日	数学	数学Ⅰ	【学習課題】与えられている情報を整理し、結論から文章を予測し、求める情報を整理、という一連の流れがきれいに見えました。 【発問の工夫】日常の授業のしつけが行き届いているため、先生の発問に全員が反応している様子がうかがわれました。 【振り返り】本日やった内容を自然と振り返るのみならず、次時の予告または自学させることにつながり素晴らしいと思った。 【その他】素晴らしい授業をありがとうございました。機会があったら、グループで学習することのメリットで先生が感じていらっしゃることを教えてください。
21	11月6日	数学	数学Ⅰ	【学習課題】明確にされていたと思います。 【発問の工夫】適切だったと思います。 【振り返り】生徒自身の言葉で「三角形の形状を求める方法」をまとめ、発表できていて良かったと思います。 【その他】板書の字が丁寧で見やすかったです。11組は1年生の中でも常に活発に授業に参加しようという姿勢が旺盛なのですが、私としては一斉に発言させたときに、ばらばらだったりするとどう進めたら良いか困るのですが、先生は上手く発言を読み取り、適切な方向へ授業を以て言っていたのですばらしいと思いました。グループの人数はもう少し少なく3～4名ぐらいの方が良いと思いました。グループ内で2分割しているグループも見受けられました。
22	11月9日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【学習課題】学習課題までの提示の流れは、自然で生徒にもわかりやすい。 【発問の工夫】良い点と悪い点という二元論のため、明確に立論し、表現しやすいと感じました。ただ、現実には二元論では割り切れない部分もあり、その辺の考えもみたいいと思いました。 【振り返り】ペア→グループ→個と適切に実施されていたと思います。 【その他】英語で表現し合う生徒の声がヒソヒソなのが、やや気になりました。間違ってもいいので、大きな声で言い合うところから語学はスタートした方が個人的には上達すると思うのですが。
23	11月9日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【学習課題】目標に関連して、自分自身の意見を持たせ、記述させ、その上で学習課題を示すというところが良いと思った。 【発問の工夫】個人に対して発問し、グループで意見を共有させるという順番で行われており、1人1人が自分の意見を持てる発問の仕方だと思った。 【その他】導入のところで、ペアで1分間スピーチをお互いに行い、英語に短時間で慣れさせるというのは授業の雰囲気づくりにとても良いと思った。また、普段からやっているのか、スムーズに始まり、ワードカウンターを用いて語数を数えるのも、生徒達は慣れたものだった。
24	11月9日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【振り返り】何人かの生徒に発表してもらい、それに対しての反響を聞き合ったりすると、より話し合いがいかに深まったかわかるのではないかなと思いました。日本語でも個人→グループ→個人と考えさせて最後にまたみんなの前で発表するというのはけっこう大変なので、時間設定が難しいですね。 【その他】5組の皆さんには古典の授業でお世話になっていますが、先生の授業はいつもにましてアットホームな雰囲気で、発言しやすい空気が広がっていたと思います。日本語でのディベート能力、協議をする力を鍛えることが、英語でのグループ活動にも資すると思いますので、国語の授業を頑張って行いたいと思います。
25	11月9日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【学習課題】私達の身近にあるインターネットを上手に使いこなせているかどうかを考えさせる意味で、効果的な課題提示だと思いました。 【発問の工夫】導入で、インターネットの活用について考えさせ、良い点、悪い点を上げさせ、自分の考えをまとめさせ、更にみんなと意見をシェアして考えを深めさせる発問は、良い展開のさせ方だと思いました。 【振り返り】1回目、2回目と自分の考えをまとめる活動をできたことで、自分の述べ方を定着させる方向に展開できたと思います。 【その他】今後も自分の考えを明確に相手に伝える活動を繰り返してほしいと思いました。本単元の1時間目ということでしたが、何か事前に単語の確認やインターネットに関する情報提供をされていましたか。普段新出単語の確認などはどうされていますか。いずれにしても大変勉強になりました。
26	11月10日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【学習課題】適切でした。導入のウォームアップが活かされていました。 【発問の工夫】やや聞き取りにくいところもありました。 【その他】言葉のアクセントや身振りを交えて、的確に自分の思いを相手に伝えることを学んでいました。やや消極的なようでした。盛り上がるとよかったと思いました。
27	11月10日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【学習課題】ヨーロッパと日本の江戸時代のリサイクル事情を、パワーポイントを用いて絵や写真を提示し学習課題を明示していたので、生徒も本時のねらいがよくわかったと思う。 【発問の工夫】ALTにプラスして武田先生による粘り強い発問で興味関心が膨らんでいった。質問に答えようとする和やかな雰囲気があり、日頃からの信頼関係が良好だということがわかった。 【振り返り】最後まで参観しなかったが、アレックスから聞くと、グループ内で出た意見を板書してみんなでシェアするという活動で終わり、よいまとめだと思った。 【その他】前半でALTを多く活用し、両者のバランスも良かったが、途中から武田先生主導で授業が展開し、アレックスが時間をもてあましていたので、何か手伝わせても良いと思った。最後にシェアした考えを元に書かせてもよいかと思った。来年の参考になりました。

28	11月10日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【学習課題】そのときの活動で達成すべき内容は、黒板かスライドで提示されていた方がよいと思いました。 【振り返り】先生がおっしゃったように最後、紙にまとめて追われると生徒が目に見えて自分の考えをまとめられると思いました。 【その他】オーラルイントロがとても勉強になりました。これから自分でもやってみたいと思いました。ALTが生徒の意見をパラフレーズにしてくれることで、表現の幅が広がりとても良かったので、参考にさせてもらおうと思いました。
29	11月10日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【発問の工夫】話し合うべき事が明確に伝わっていると思いました。生徒側が困っている様子がなかったです。 【その他】生徒同士が積極的に話し合う様子が見られ良かったです。JTEとALTの会話を記憶するのが大変かもしれないと感じました。勉強になりました。
30	11月10日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【学習課題】タイミングよく提示されていて、みんな生徒がしっかり注目して見て理解していた。 【発問の工夫】生徒の活動が効果的な物となるような発問がなされていた。 【振り返り】自己評価という形での振り返りで生徒が自分の活動を振り返れていたので良かった。 【その他】指示がはっきりとわかりやすかった。ALTとのオーラルイントロがとても良かったので、自分もやってみたいと思った。ALTが一緒に活動に入ることで、生徒のモチベーションも上がってよいと思った。振り返りシートはゆくゆくは英語で書かせた方がいいと思った。
31	11月10日	英語	コミュニケーション英語Ⅱ	【学習課題】自分におきかえて考えやすいQであったと思います。 【振り返り】様々な人の意見を聞いた上で、自分の考えをまとめる時間があるので、より｢深く考えることができると思いました。 【その他】指示が明確でやらなければいけないことがはっきりしていたので、生徒に迷いがありませんでした。普段から英語を話しなれているのがわかりました。活発でかつ4技能すべてを使っており、とても良かったと思います。

秋田県立横手高等学校

国語科（国語総合　現代文）学習指導案

日　　時　　：平成２９年１１月１０日（金）５校時
対象生徒　　：１年１１組　４０名
場　　所　　：１１ＨＲ教室
使用教材　　：『探求現代文』桐原書店
指　導　者　　：古谷　祥多

１．単元名
「歴史は『今・ここ・私』に向かってはいない」内田樹
（『新　探求現代文　現代文・表現編』、桐原書店、p223 - 232）

２．単元の目標
①　筆者が主張を伝えるために施している工夫について考えようとする。（【関心・意欲・態度】）
②　文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。（C【読むこと】（１）ア）
③　文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図をとらえる。（C【読むこと】（１）ウ）

３．単元について
（１）教材観　　内田樹『寝ながら学べる構造主義』からの抜粋である。本来は「入門者のために書かれた構造主義の平易な解説書」として書かれた文章であるが、抜粋部分においては構造主義については扱われていない（該当部分が削除されている）ため、文章の落としどころが定まり切っていない部分も見られる。その一方で、難解な考え方を、具体例等を用いて読者に身近に感じさせる文章構成になっているという側面もある。

（２）生徒観　　男子１８名、女子２２名の学級で、国語に対する学習意欲は高く、ペアワークやグループワークなどの考えを交換する活動に対して積極的な態度で臨む傾向にある。国語総合では、評論文はこれまで「サイボーグとクローン人間」、「わかろうとする姿勢」、「なぜ、多様性が必要か」などを扱っている。それらの授業における傾向として、自由に考える発問に対して特に意欲的に取り組む。

（３）指導観　　自分の考えを述べたり、自由に解釈したりする活動に対して、高い意欲を持って学習に臨む傾向にあるが、一方で、本文の叙述に則して読むという意識は更に高めていきたい部分である。

４．指導と評価の計画（総時数３時間）

	単元指導計画	評価規準（評価の観点）
第１時（本時）	第１段落を精読し、具体例の効果について考える。	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図をとらえることができている。（C【読むこと】（１）ウ）
第２時	第２段落を精読し、第１段落で提起された問題について、考えを深める。	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図をとらえることができている。（C【読むこと】（１）ウ）
第３時	第３段落を精読し、フーコーの問いかけに対する筆者の考えを理解する。	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むことができている。（C【読むこと】（１）ア）

５．本時の計画

（１）本時のねらい

評論文中における具体例の効果を理解する。

（２）本時の評価規準

項目	関心・意欲・態度	読む能力
内容	筆者が主張を伝えるために施している工夫について考えようとする。	文章の構成や展開から、書き手の意図をとらえることができている。（C【読むこと】（１）ウ）

（３）展開

	学習活動	教師の支援	評価の観点及び方法
導入１０分	①第１段落の構成を確認する。 ②具体例の効果について復習する。	・本文の前に平易な教材を先に与えることで、段落構成のポイントをつかむことができるようにする。 ・これまで読んだ評論を振り返り、具体例の効果について想起できるようにする。	筆者が主張を伝えるために施している工夫について考えようとする。（【関心・意欲・態度】、行動観察）
展開３０分	③本時の課題を把握する。	・見通しを持って学習に取り組むことができるように、学習課題を提示する。	
	学習課題：なぜ意味段落〈1〉で、具体例が用いられているのか。		
	④具体例が述べられている段落の中からキーセンテンスとなる文を探す。	・根拠を明確に述べる姿勢を養うため、文の指摘のみならず、理由も挙げるよう指示する。	
	具体例の中で最も核となる文はどれか。		
	⑤「思い込み」の内容について考える。	・板書を整理して、具体例をきっかけとして、換言や説明に沿って論が展開していることに気付くことができるようにする。	
	「思い込み」を詳しく述べているのはどの部分か。		
まとめ１５分	⑥学習課題に対して考える。 ⑦次時の学習の見通しを持つ。	・個で考える時間を確保したのち、グループで考えを共有する時間を設定し、オープンな問いに対してそれぞれが考えを深めることができるようにする。 ・次時の見通しが持てるように、本文中の問題提起を参照し、予告する。	文章の構成や展開から、書き手の意図をとらえることができている。（C【読むこと】（１）ウ、グループワーク）

平成２９年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（国語科）

国語科　川越　真紀子

平成２９年１１月１０日（金）に本校において国語科の公開研究授業が実施され、１２月１８日（月）に研究協議会が開催された。報告は次のとおりである。

Ⅰ　日　程

１１月１０日（金）１３：３０～１４：２５（５校時）　　研究授業（１１組）
「国語総合　現代文分野」　　古谷　祥多　　於：１１教室
単元名　：　評論「歴史は『今・ここ・私』に向かってはいない」

Ⅱ　協議会参加者

川越真紀子、永田聡、髙見直子、藤田香苗、古谷祥多、小武海春佳

Ⅲ　授業者からの報告（授業のねらい、成果や反省点など）

具体例から始まる文章であるが、なぜ具体例から始まるのかを考えさせたかった。これまで学んだ教材から具体例の効果を想起させ、具体例の核となっている部分を考え、焦点化することをねらった。

具体例の働きに気づかせるために、小学校１年生の教材「じどう車くらべ」を用いて、段落構造を確認させた。

時間配分等、不十分だった点もあるので、指導案も含めて指摘してほしい。

Ⅳ　参観者からの感想

・平易な教材を用いたことで、「どこで段落が区切れるか」という段落意識を持たせ、スムーズに高校の教材に入ることができていた。
・段落分けについて違う意見が出たことで、視点の違いが見られ、文章の特徴に気づくことができたのではないか。
・段落分けに焦点を当ててしまうと、本文の読み取りがおろそかになってしまう怖さがあるが、ねらいを絞るのであれば、細かいところを捨象するのはやむを得ない。本時のねらいはしっかりとできていた。
・表現や構成について問われる問題が増えてきており、自分たちが発信する場合も踏まえて、表現や構成について指導していかなければならない今、関連が深い指導案であった。
・音読の苦手な生徒に対してどのような配慮をしているか教えてほしい。
　→　意図したことではなかったが、まる（句点）読みをしたことで、苦手な生徒も難なく読むことができたと思う。ふだんは長い箇所があたらないような配慮はしている。
・具体例の効果を考えさせるためにどのような工夫をしたか教えてほしい。
　→　具体例を導入に用いることで、読者を引きつける効果があることも考えさせたかった。
・最後にホワイトボードにまとめを書かせていたが、どのように完結させたのか。生徒から「先生の意見も聞きたい」という声が上がることがあるが、どのようにしているか。
　→　ホワイトボードに書くと形に残るので、全部の班のものをまとめて生徒に配付している。教員の答えを出すと、生徒がこれでいいと思ってしまうので、答は出さずに、机間指導等で上手に誘導するようにいている。ホワイトボードに書かせる場合は、オープンな問に限るようにしている。

数学科（数学Ⅰ）学習指導案

日　　時　　平成２９年１１月６日（月）６校時
場　　所　　秋田県立横手高等学校　１年１組教室
対象生徒　　１年１組（普通・理数科　男子 18 名＋女子 22 名＝ 40 名）
使用教材　　数学Ⅰ（数研出版）
指導者　　田中　武夫

１　単元名　　数学Ⅰ　第３章　図形と計量

２　単元の目標

①三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考え方の有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。

②正弦定理・余弦定理を導き、これを利用して三角形の辺と角の間の関係を明らかにするなど、いろいろな問題を通して有用性の理解を深めさせる。

３　生徒の実態

男子１８名、女子２２名からなる普通・理数科のクラスである。数学に対する興味関心が高い生徒が多く、学習に対する姿勢も積極的である。しかし理解の幅は広く、数学を苦手とする生徒も少なからず存在する。

４　単元の指導計画

１　三角比、三角比の相互関係　　４時間
２　三角比の拡張　　３時間
３　正弦定理、余弦定理、面積　　８時間
４　演習　　３時間（本時　１／３）

５　本時の目標

①　三角比の式から三角形の形状を求める方法を考察し、理解する。
②　正弦定理・余弦定理を利用して、三角形の形状を求める。

６　本時の評価規準

項目	ア関心・意欲・態度	イ数学的な見方や考え方	ウ数学的な技能	エ知識・理解
内容	図形と計量における考え方に関心を持つとともに、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。

7　本時の展開においてキャリア教育の視点から特に重要なこと

グループでの話し合い等により生徒の主体的な活動・考察を促すことで課題解決能力（筋道を立てて考え表現する力や、論拠に基づいて判断する力）を高めていくこと。

8　本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点および方法
導入 7分	学習課題 正弦定理や余弦定理を利用して、三角形の形状を求めるにはどうしたらよいか。 学習課題を確認する。 三角形の形状を答えるためには何を示せばよいかを考える。	自由に考えを出させる。	
展開 15分	具体的な発問　1 $\sin C=2\sin A\cos B$ を満たす三角形はどのような形をしているか。 正弦・余弦を辺のみの式で表す。 グループに分かれ次の問題を解く。	指名して発表させる。 板書して解答を確認する。	求値問題以外に正弦定理・余弦定理を利用することに気づく。（イ）
25分	具体的な発問　2 次の等式を満たす三角形はどのような形をしているか。 (1)　$c\cos B=b\cos C$ (2)　$\sin A\cos A=\sin B\cos B$ グループ内で解法を話し合い、共有する。 (1)(2)を２つのグループに板書・説明させ、クラスで解法を共有する。 (1)の別解を考える。	因数分解等の計算でつまづいているグループを支援する。 問題によっては角の式で表す方法もあることを気づかせる。	意欲的にグループ活動に取り組んでいる。（ア） 正弦定理・余弦定理を利用し答えを導くことができる。（ウ、エ）
整理 8分	振り返り ワークシートに解法をまとめる。 確認テストを行う。	今日の授業内容が定着しているか確認させる。	

平成２９年度横手高校公開研究授業

研究協議会記録（数学科）

数学科主任　田中　武夫

Ⅰ　日　程

【研究授業】　１１月６日（月）

１４：３５～１５：３０（６校時）　研究授業（１１組）

「数学Ⅰ」　田中　武夫　於：１１組教室

単元名　第３章 図形と計量「正弦定理と余弦定理の応用

【研究協議会】　１１月６日（月）　１６：００～１７：００

Ⅱ　研究協議会参加者

塩谷太、千田貴広、鈴木亘、藤本亮、芳賀崇、横山麻美、田中武夫（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

・グループでの課題を２つ設定したが、課題の難易度を考えると多かったかもしれない。

・上位と下位の学力差が大きく、今回の授業はどちらかというと上位の生徒に焦点を当てた。

・最後に示した別解については、時間内に扱うつもりであったが進み具合から、次時への課題に変更した。

・グループ活動は今日で３回目ぐらいである。

Ⅳ　参加者からの感想

・解法の確認や計算の仕方など非常に丁寧に進められていた。

・課題２は確かに難易度が高い問題ではあるが、思ったよりも躓いている生徒が多いと感じた。

・グループを作る際の人数は６～７人だと多いのでは？４人ぐらいだと全員が話し合いに参加できると思う。

・生徒としっかりとコミュニケーションをとって進められていた。

・「角の式を辺の式に書き換える」という方針を示す際、生徒から出てきた意見を反映した形だったので、非常に自然な流れであった。

・解法を板書した生徒は模範的な解答をしていたが、あえて間違った解答をしている生徒に板書させて、全体で共有しても良かったかもしれない。

・根拠を明らかにして話したり、単語でなく文章で答えたりする等の言語活動がしっかりできている印象。１・２年生の段階できちんと指導し、３年生につなげたい。

・グループ活動にも慣れているようだった。
・非常に安心感のある授業であった。
・非常に丁寧に進められていたが、ある程度生徒に任せてみても面白くなりそうな場面がいくつかあった。
・課題２の解法を板書した生徒の間違いを生かして、「または」「かつ」の違い等もう少し深めても良かったかもしれない。
・積極的な生徒が多い分、自由に自分の考えを発言する雰囲気であった。まだ自分の考えを持つことができていない生徒にとっては、思考が遮られる可能性もあるのではないか。
・最後に投げかけた別解は生徒にとっては少し難易度が高かったかもしれない。
・振り返りの場面では、生徒が適切な表現でまとめることができていて素晴らしかった。

平成２９年度横手高校公開研究授業

研究協議会記録（英語科）

英語科　　大塚　のぞみ

Ⅰ　日　程

【研究授業】

１１月９日（木）１４：２５～１５：３０（６校時）

クラス：２年５組

科　目：コミュニケーション英語Ⅱ

単元名：Lesson6 Is the Internet Making Us Smarter?

【研究授業】

１１月９日（木）１６：００～１６：５０

Ⅱ　授業者からの報告

今年度は「主体的・対話的な活動を通して生徒の思考力を育成する」をテーマに掲げ、日々の授業において様々な取り組みを行った。今回の研究授業においては、インターネットを適切に利用するために自分たちはどうすべきかについて考えを深め、その内容を英語で表現させたいと思い授業の構成を考えた。

深い学びに繋げるために、ただ自分の意見や考えを発表して終わるのではなく、自分の考えを周りの人たちと共有し新しい視点や考えを吸収することで、さらに自分の考えを深めさせるような活動の流れになるよう心掛けた。そしてそういった活動のなかで、自分の考えがより伝わるための表現や言い回しを学習してもらうことが今回のねらいであった。

授業を行っての感想は、まず導入のワードカウンターは、日頃から生徒の英語の発話量を増やすために授業で行っている活動である。始めた当初は、生徒はなかなか発語量を増やす事が出来ず苦労していたが、回数を重ねるにつれて発語量が確実に増えていった。今回は授業の内容に関連したテーマで活動を行ったが、１分間の活動中言いよどんでいる生徒も少なく、スピーチを続けられている生徒が多く見られた。

展開部分では、インターネット利用についての良い点と悪い点を挙げさせ、その内容をグループで意見交換させ、その内容を元にテーマについて自分の意見を書かせた。自分の意見がより伝わる英文となるよう工夫することと、ペアでの発表の際には、発表の内容が相手に伝わっていることを確認するために、聞いた内容を日本語で再度確認する過程を入れた。日本語で確認させると間違った内容で受け取っていることが多々あり、英語での伝え合いの活動の際には注意が必要だと感じた。

最後のまとめの部分では、本当はもう少し英文でまとめさせる時間を取りたかったが、限られた時間のなかで英文をまとめる力も必要だと思った。発表も１人しか出来ず、もっ

と多くの意見を共有させたかったので、時間の配分が課題である。後日、回収したプリントの中から、数人分を選び配付することで一部のものは共有することができた。

今後の課題は、各活動の時間の配分や意見交換の方法としてより良い活動方法がないかを検討していきたいと思う。

Ⅲ　参観者からの感想

〇学習課題の提示・確認

・学習課題までの提示の流れが自然で生徒に分かりやすいものだった。

・私たちの身近にあるインターネットを上手に使いこなせているかどうかを考えさせるのに、本時の学習課題は効果的であったと思う。

・学習課題が黒板に分かりやすく明示されており、生徒全員が今日やるべき事をしっかりと理解できていたと思う。

〇思考判断（発問の工夫）

・インターネット利用に関しての良い点と悪い点という二元論のために、明確に立論し表現しやすいと感じた。ただ、現実には２元論では割り切れない部分もあり、その辺の考えもみたいと思った。

・最後に個人で考えをまとめる時間を取っていたので、思考がまとまったと思う。

・インターネット利用の良い点と悪い点について自分の考えをまとめさせ、さらにそれをいろいろな人とシェアしたことで考えが深まり、良い展開のさせ方だと思った。

・最後に何人かの生徒に発表してもらい、それに対しての反響を聞きあったりすると、いかに話し合いで意見が深まったかが分かると思った。しかし、そうするためには時間の設定が難しいと思う。

〇言語活動

・ペア→グループ→個人と場面や学習活動に応じて適切に実施されていたと思う。

・１回目、２回目と自分の考えをまとめる活動を useful expressions を活用しながらできたことで、意見の述べ方を定着させる方向に展開できたと思う。

・ペアやグループの形態が工夫されており、より多くの人たちと意見交流できるように考えられていた。

・ペア活動でやることと、グループ活動でやることを明確に分けた方がよいと思った。

〇その他

・発表のときだけでなく、活動中においても、もっと自信を持って大きな声で話し合うと、表現の定着や英語の上達に役立つと思う。

・話し合うべき内容が板書されていることで、生徒たちはそれを見ながら活動ができ、分かりやすかったようだった。

・プリントがよく工夫されていて、生徒はまとめやすかったと思う。

・相手が英語で話した内容を意図的に日本語でまとめさせていた点がとても良かった。

・ワードカウンターは生徒の発話量を増やす点において、効果的な活動であると思った。

理科（化学）学習指導案

日　　時：　平成２９年１１月　８日（水）２校時
対象生徒：　２年３組（普通科理型４１名）
実施場所：　化学実験室
教 科 書：　「高等学校　化学」（第一学習社）
指 導 者：　小野寺　庸

１　単　元　名　　物質の状態　「気体の性質」

２　単元の目標　①一定温度では、気体の体積と圧力は反比例の関係にあり、一定圧力では、気体の体積は絶対温度に比例することを理解する。
②ボイル・シャルルの法則によって、気体の体積、圧力、温度の関係が計算できる。
③気体定数と気体の状態方程式を用いて気体の分子量を求めることができる。
④混合気体について、分圧と全圧の関係を理解する。
⑤水上置換で捕集した気体には、水蒸気が含まれていることを理解し、捕集した気体の分圧を求めることができる。
⑥実在気体と理想気体の違いについて理解する。

３　生徒の実態　　男子２３名、女子１８名、計４１名の普通科理型クラスである。落ち着いた態度で授業に臨み、授業者や発表者の話を真剣に聞くことができる反面、やや積極性に欠け、自ら発表する生徒は少ない。科学的な事象に関する興味や関心は高いので、自ら課題を見つけ、その課題の解決に向けて主体的に考察する思考力や、積極的に自分の考えを発表する態度の育成が課題である。

４　単元の指導計画　（１）気体の体積変化　　１時間
（全５時間）　（２）気体の状態方程式　　３時間（本時２／３）
（３）理想気体と実際の気体　　２時間

５　本時の目標　気体の質量、温度、圧力、体積が分かれば、状態方程式から分子量を決定することができることを理解し、計算により気体の分子量を求めることができる。

６　本時の評価規準

項目	ア.関心・意欲・態度	イ.思考・判断・表現	ウ.観察・実験の技能	エ.知識・理解
内容	・状態方程式で使用する単位を発表できる。 ・実験方法を把握できている。	・分子量を求める式を導出できる。	・正確な実験ができている。	・気体の状態方程式を正しく書ける。 ・状態方程式で使用する単位を発表できる。

7　本時の展開

	学習活動	教師の支援	評価の観点及び方法
導入 5 分	・前時の学習内容（気体の状態方程式）を確認する。 ・気体定数の単位を確認する。 ・気体の状態方程式を使用する際の注意点を把握する。 ・本時の学習課題を把握する。	・前時に学習した内容を共通理解するため、グループで確認する。 ・気体定数を求める際に用いた単位について助言する。 ・気体定数を使う際に使用できる単位について徹底する。	・気体の状態方程式を正しく書ける。 エ（プリントへの記入） ・状態方程式で使用する単位を発表できる。 ア・エ （挙手、指名での発表）
	学習課題：気体の状態方程式を活用し、気体の分子量を求めよう。		
展 開 ４０ 分	具体的な発問①：分子量を求めるためには、何が分かれば良いのか。		
	・物質量を質量と分子量を使って表す。 ・気体の状態方程式に値を代入し分子量を求める式を求める。	・分子量（モル質量）と質量、物質量の関係を確認させる。	・分子量を求める式を導出できる。 イ（プリントへの記入）
	具体的な発問②：気体の質量は、どうすれば求めることができるだろうか。		
	【実験】 ・本時の実験方法を把握する。 ・グループ毎に窒素の体積と質量を測定する。 ・気体の状態方程式に実験で求めた測定値を代入し、窒素の分子量を計算する。 ・グループ毎に結果を発表する。 ・結果を確認し、結果から考察されることを話し合う。	・実験方法を説明し、的確に実験ができるように助言する。 ・机間指導をしながら、助言する。 ・計算に過度な時間がかからないように、計算機の使用を促す。 ・グループでの活動が円滑に進むように支援する。	・実験方法を把握できている。 ア（観察と机間指導） ・正確な実験ができている。 ウ（観察と机間指導）
	具体的な発問③：実験結果から、何が分かったか。（また、理論値から外れた値になった場合は、なぜそのような結果になったのか考察しよう。）		
まとめ １０ 分	・本時の振り返りとして、気体の状態方程式を用いて分子量が求められることを確認する。 ・水上置換で気体を捕集した場合は水蒸気圧を考慮する必要があることを認識する。 ・次時の内容を確認する。	・良い結果が得られたグループの値を例に、理論値に近い値が得られることを確認する。 ・理論値とのずれについて説明し、その理由については次の時間に学習することを伝える。	

平成２９年度横手高校公開研究授業
研究協議会記録（理科）

理科主任　鎌田　孝司

平成２９年１１月８日（水）に本校において研究授業が開催された。報告は次のとおりである。

Ⅰ　日　程

【研究授業】　　１１月８日（水）

９：４５～１０：４０（２校時）　研究授業（２３組）

「化学」　小野寺　庸　　於：化学実験室

単元名　：　「気体の性質」

【研修会】　　１１月８日（水）

１６：００～１７：００　　理科研究授業研修会

Ⅱ　研修会参加者

鎌田孝司、岡本由佳子、藤谷希、釜田博一、佐藤隆、後藤直地、小野寺庸（授業者）

Ⅲ　授業者からの報告

今回実験を行った「気体の性質」の単元は重要な法則が複数あり、計算力も必要な分野であるため、公式の暗記や問題演習に偏る生徒も少なくない。しかし、それぞれの法則の関連性や公式の成り立ちなどを理解することが重要であるため、実験により気体の状態方程式の意味を理解することを目標とした。難しい実験ではないが、正確な値を得るには注意すべき点も多く、また、結果を整理し考察するためには煩雑な計算も必要になるため、実験操作や計算に時間を掛け過ぎないように配慮し、公式の成り立ちや結果から考えられる内容を考察することに重点を置いた。最後は少し時間が足りなくなってしまったが、概ね本時の目標は達成できた。

Ⅳ　参観者からの感想

・学習課題について、黒板に提示するだけではなくプリントにも明確に記載されていて、本時の授業でやるべき（取り組むべき）こと、実験や学習活動のねらいとするところがはっきりと示されていた点が良かった。

・気体の状態方程式だけではなく、「単位」についても丁寧に共通理解を図って確認していた。また、課題そのものが明確だったのでわかりやすかった。

・分子量を求めるために必要なことを生徒に考えさせていて、発問②への流れがスムーズに進んだと感じた。

・前時までの内容を復習しつつ、本時の授業でのデータ処理に必要な要素をきちんと確認することのできる発問であった。

・授業時間の関係もあり、発問③で生徒に考察させて発表させる時間が持てなかったようなので、ここができればもっと良かったのではないかと思った。
・何を聞いているのか明確に分かる発問の仕方であり、大部分の生徒も答えが分かっているようだったが、生徒側で遠慮しているようだった。このクラスは自分でも常に生徒から声を発するように工夫しているが、なかなか自ら発言する生徒が出てこない状況で苦労している。他のクラスでは同じ発問の仕方でも、多くの反応が返ってくるので、クラスによる差が大きいことをあらためて実感した。
・実験結果の振り返りなので、生徒がとても興味を持って振り返りに臨んでいた。明確な値が実験結果として得られるので振り返りやすくわかりやすいと感じた。
・本時の結果の振り返りだけでなく、次時の学習課題につながる振り返りであった。興味深い展開だった。
・授業プリントの最後に反省・感想をまとめることで、生徒もしっかりと振り返りができていたと思った。
・実験中も注意点を確実に確認しており、実験がスムーズに行える配慮がされていた。
・分子量を求める考察の際に、単位に注意することをしっかり意識付けすることができていた。
・このクラスの特性上、自分から発表するという生徒は少ないのだが、みんな熱心に実験に取り組み、手計算も頑張っていた。理論値が分かっているからこそ、探究心が生まれるという学習課題の設定は参考になる部分があった。
・最後に実際の数値と計算値がずれる理由を考察させる展開がとても興味深く、面白かった。答えに至ったかどうかは分からないが、生徒たちは「なんでだろう？」と一生懸命考えていた。生徒は頑張って実験していたが、本校の実験設備、備品のお粗末さをあらためて痛感した。もっと大きい水槽とメスシリンダーがあれば、もっと楽に、正確に実験することができたのではないかと残念だった。現状でいろいろと工夫しているのがよく分かった。
・正確に実験を行うことの難しさや重要性を生徒が実感することができたのではないかと感じた。また、板書についても、前回までの確認から授業の流れに沿って整然とまとめられておりわかりやすかった。
・授業の最後の部分で、「種明かしは次回」という部分があったが、今日の内容を振り返るということでは、今日のうちに答えを明かした方が良いのではないかとも思ったが、わざと次回にまわすことで復習させるという点では、このような方法も良いと思った。残り時間が少なくなってしまった場合は、無理矢理時間内で完結しないで次回にきちんと整理することも大切だと感じた。

V　まとめ

実験の時はもちろんであるが、座学の授業でも生徒自らが課題の解決に向けて主体的に考察する思考力を養うことができるような発問を意識することが大切である。また、授業の進度を確保し、確かな学力を身に付けさせることとバランスを取りながら実験・観察をより多く取り入れ、科学的なものの見方や論理的な思考力を育成する必要がある。

地理歴史科（日本史Ｂ）学習指導案

日　　時　　平成２９年１０月３１日（火）５校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　　特５教室
対象生徒　　２年６組　（普通科　男子１０名＋女子１２名＝計２２名）
教 科 書　　『 改訂版　詳説日本史 』山川出版社
指 導 者　　打矢　泰之

１．単元名　　第４章　中世社会の成立

２．単元の目標
① 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。
② 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運から課題を見いだし､武士の土地支配と公武関係、宋・ 元とのかかわりと関連付けて多面的・多角的に考察することができる。
③ 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運に関する諸資料を活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した経過や結果を適切に表現している。
④ 武家政権の形成過程と鎌倉新仏教など文化に見られる新しい気運についての基本的な事柄を宋・元とのかかわりと関連づけて理解し、その知識を身に付けている。

３．生徒の実態
活発なクラスで日本史への関心も高く､授業に取り組む姿勢は真面目でよく集中できている。基礎的な知識はよく身に付いており、他の生徒と協力して史料の読解や分析を行ったり、学習課題について考察をしたりするなど、グループで学習する能力は高い。生徒一人ひとりが自分で調べて考え、それをまとめて自分の言葉で説明する力をつけていくことが課題である。

４．単元の指導計画
院政と平氏の台頭　　（４時間）
鎌倉幕府の成立　　（２時間）
武士の社会　　（２時間）
蒙古襲来と幕府の衰退　　（２時間）
鎌倉文化　　（３時間）　　※　本時　１１／１３

５．本時の目標
平安末期までの仏教の変遷に着目し、法然・親鸞の教えの特色とその成立の背景について考察することができる。

６．本時の評価規準

項目	ア.関心・意欲・態度	イ.思考・判断・表現	ウ.資料活用の技能	エ.知識・理解
内容		法然・親鸞の教えの特色や、教えが成立した社会背景について考察することができる。		法然・親鸞に関する基本的な事柄に関して、総合的に理解し、その知識を身に付けている。

７．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導　入 １０分	①修学旅行で見学してきた東大寺の大仏について振り返る。 ②奈良時代の仏教、平安時代の仏教の特徴について復習する。 ③本時の学習課題を把握する。	図版を掲示し、東大寺や大仏に関する基本事項を確認させる。 「鎮護国家の思想→密教の流行→浄土教の流行」というキーワードを使い短時間で仏教の変遷について確認する。	
	学習課題：法然や親鸞の教えがなぜ当時の人々に受け入れられたのか？		
展開Ⅰ １８分	④法然が布教活動をしていた時代が戦乱や飢饉が発生する不安定なものであったことに気付かせる。	法然の生没年をもとに当時の戦乱や飢饉などを考えさせ、分からない場合は図表で調べさせる。	資料を活用して社会背景について考察できている。イ（観察・ワークシート）
	具体的な発問①：法然が布教活動をしていた頃、日本社会ではどのような出来事が起きていたか？		
	⑤ペアで話し合い、法然に対して旧仏教側が批判をした理由について考えさせる。	戒律や修行など旧仏教の僧侶が重視した部分と法然の教えを比較させる。	旧仏教と法然を比較し、旧仏教側が非難した理由を考察できる。イ（観察・ワークシート）
	具体的な発問②：法然はなぜ旧仏教側から批判されたのか？		
展開Ⅱ １９分	⑥ペアで『歎異抄』を読み、親鸞が考える悪人について話し合い、武士や庶民が親鸞の教えに救われた理由について考える。	親鸞の略歴を通して親鸞が悪人正機説を唱えるに至った背景を理解させる。	『歎異抄』を読み、悪人正機説を理解できる。エ（観察）
	具体的な発問③：なぜ武士や庶民は親鸞の教えに救われたのか？		
		武士や庶民の生業について考えさせ、かれらの生き方そのものが仏教の戒律に反する部分があることに気づかせる。	武士や庶民が親鸞の教えを支持した理由を説明できる。イ（観察・ワークシート）
本時の振り返り ８分	⑦ワークシートを使って本時の内容を振り返り、法然と親鸞の教えが人々に受け入れられた理由を発表する。	法然と親鸞の教えの共通点や、社会背景に着目させる。	法然や親鸞の教えが鎌倉時代の人々に受け入れられた理由を発表できる。イ･エ（観察・ワークシート）

平成２９年度横手高校公開研究授業

研究協議会記録（地歴公民科）

地歴公民科　　打矢　泰之

Ⅰ　日　程

【研究授業】

１０月３１日（火）１３：３０～１４：２５（５校時）

クラス：２年６組

科　目：日本史Ｂ

単元名：第４章　中世社会の成立

【研究授業】

１０月３１日（木）１６：００～１６：５０

Ⅱ　授業者からの報告

今年度の授業では、「主体的で深い学びにつながる発問の工夫」を意識しながら授業づくりを行ってきた。政治改革や対外戦争など歴史のターニングポイントになる部分では、生徒に歴史の「なぜ」を考えさせる機会を設けるようにしている。

研究授業で扱った鎌倉時代は、貴族から武士へと時代が転換する時期で、戦乱や飢饉などの社会不安に庶民が苦しんだ時代である。そのような社会背景が鎌倉新仏教の登場する契機となったこと、また鎌倉新仏教の教義が富や権力のない庶民にとって受け入れやすかったという事情について考えさせることが授業のねらいである。

授業の反省点は、時間内に振り返りまで進めなかったこと、生徒の発言を深める二次的な質問ができなかったこと、効果的なグループワークができなかったことが挙げられる。まず、授業構成の段階で、５５分の授業に「なぜ」という発問を３つ組むことに無理があった。また、ペアワークで生徒がどこまで話し合いを深めているのかがつかめず、切り上げるタイミングが遅れてしまった。生徒の発言に修正すべき点があったにも関わらず、そのまま授業を進めてしまったことも反省点である。

Ⅲ　参観者からの感想

〇学習課題の提示・確認

・「予想の記入」により、本時の課題を意識づける方法がよいと思った。仏教の大まかな流れが簡潔で分かりやすかった。

・大きな声、効果的なタイミングなど、強調して示されていた。

・「なぜ」という課題の提示の仕方で興味がわいてよかった。予想を立てさせていたので、隣同士で確認させる時間があるとよいと思った。

〇思考判断（発問の工夫）
・全員で一斉に答えさせる、一人ひとりに答えさせる、文章で答えさせる、単語で答えさせるなど、様々なバリエーションをそれぞれのケースで使い分けていた。
・生徒の答えの中には、二次質問で深めてあげたり、少し修正してあげたりした方がよいのでは、と思われるものも若干あった。
・法然の思想だけでなく、法然が生きた時代全体を捉えさせようとする発問があった。時代背景から､なぜ法然の思想が生まれ､発展していったのかを考察できる工夫がなされている。
・修学旅行の話から大仏と鎮護国家につなげる流れがスムーズだった。
・生徒から答えが出なかったときの問により、生徒を別の視点へと導くことができていいてよかった。それぞれ問についてペアで話し合うことでより理解が深まると思った。
・平安時代の浄土教について、阿弥陀堂が建立されたという事実から何が分かるのか、貴族や地方豪族などの階層にある程度限定されてしまう面があったことなどを生徒に気付かせる発問があるとよかった。
〇振り返りの徹底
・時間が足りなくて十分に振り返りができていなかったが、宿題や次時での振り返りでもいいのではないかと思った。
・前半のスピードが速かったのに、なぜ一遍まで進めなかったのか。オープンクエスチョンを３つは時間的に難しいのではないか。
・説明を簡素化し、すぐ考える・調べる時間に切り替えれば、振り返りの時間を確保できたのではないか。
〇その他
・プリントに沿って進む授業であったが、単なる穴埋め授業ではなく、様々な考察を含んだ授業構成になっていた。「宗教の教え」の意味を「教える」のではなく「気付かせる」よい授業だったと感じた。
・提示した学習課題を軸に授業内容が良く組み立てられている。復習段階でのちょっとした説明や板書メモが後半に活かされている。スピードや声の強弱などメリハリがあり、また話を聞く、作業する、話し合う、発表するという活動がバランスよく行われていた。
・なぜ悪人こそ救われるべきなのか、この点を思考・発表させることが親鸞の教えのポイント。現代感覚と異なる点を理解させている。ただ、思考させる場面が多かったので時間不足になってしまった。ペアワークする発問を２つに絞ってもよかったと思う。
・板書や説明のスピードが速く、様子を見ていると遅れ気味の生徒がいたように思う。
･悪人の定義がややあいまいであったため､生徒が表層的な理解にとどまることがないよう、今後の授業で補足説明があるとよい。
・板書が整っており見やすかった。授業の流れがスムーズで話が入ってきやすかった。
・法然の時代背景について、鎌倉幕府成立という点にこだわりすぎている回答が多くみられたのが気になった。民衆レベルにおいては税制の変化や生活様式の変化はほとんどなかったと思う。また、法然が「旧仏教」から批判された理由についても､「旧仏教」の解釈が生徒によってまちまちだったかもしれない。

保健体育科（体育）学習指導案

日　　時　平成２９年１１月１３日（月）６校時
場　　所　秋田県立横手高等学校　武道場
対象ＨＲ　１年５・６組
授 業 者　加藤　辰

１　単元名
体育（武道：柔道）

２　単元の指導目標
・相手の多様な動きに応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防を展開すること。
（技能）
・武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。
（態度）
・伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古、体力の高め方、課題解決の方法、試合の仕方などを理解し、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。（知識、思考・判断）

３　生徒の実態と授業構想
本授業対象生徒は１年生男子である。授業における態度は真面目であり、与えられた課題を解決しようとしているが中学校段階での習得内容に大きな差があり到達度にも差がみられる。
本単元では、中学校段階での技能の復習と定着を目的として、取・背負い投げと大腰、受・前回り受け身を行い、その過程で姿勢、組み方、進退動作、崩し、体さばき、受け身への生徒の意識付けができるのが理想である。

４　単元の指導計画（全４時間）
（１）基本動作（姿勢・組み方・進退動作・崩し・体さばき・受け身の確認　１時間
（２）中学校において既習技の確認　２時間
（３）背負い投げ（まわし技系）の説明　１時間
（４）背負い投げ（大腰）を用いての受・取の役割の研究　１時間（本時）

５　本時の計画
（１）　目標　背負い投げの受け、取りを通して基本動作の必要性を考え、実践する。
（２）　展開

	学習内容・学習活動	教師の支援・指導上の留意点	評価の観点
導入 5 分	1　整列、挨拶をする 2　本時の内容を確認する 3　柔軟運動を行う 4　回転運動、受け身を行う	・挨拶の際に健康観察を行う ・本時の要点を簡潔に説明する ・準備運動の間、再度健康観察を行う	
展開 40 分	5　前時の学習内容の確認 6　３人の班に分ける 7　効率よく背負い投げを施技する方法を考える	・姿勢、組み方、進退動作、崩し、体さばき、受け身の基本動作と背負い投げの要点を短時間で説明する ・３人の班に分かれる意義（客観的に指摘し合うことの必要性を説明する） ・（発問）「効率の良い背負い投げに必要なポイントは何か」各班での話し合いを促す」※肘に痛みを感じる生徒は大腰で行う。	

	8　背負い投げの施技における受け役割を考える 9　各班で受・取双方に必要な基本動作等を書き出す	・(発問)「効率的な施技のために必要な受けのポイントはなにか」各班で話し合いを促す ・ホワイトボードに必要な基本動作を書き出すことに　より、上達のためには、取・受相互の基本動作や協力が必要不可欠なことを意識させる	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする（A）
まとめ 10分	10　整列する 11　各班で今日の課題への取り組みについて話し合いをする 12　挨拶をする	・各班に本時の内容の振り返りを促し、自班の到達度を考えさせる ・挨拶の際に健康観察を行う	

A：関心・意欲・態度　　B：思考・判断　　C：技能　　D：知識・理解

保健体育科学習指導案

日　　時　平成２９年１１月１３日（月）６校時
場　　所　武道場
対　　象　１年５組・６組
授 業 者　目　黒　大　祐

１　単元名
体育（武道：剣道）「胴の打ち方と打たせ方」

２　単元の指導目標
大きな声で気迫溢れる攻めと打突ができるとともに、お互いに打ったり受けたりする中で、相手を尊重し礼節を重んじる態度をとることができるようになる。また、有効打突の条件を理解するとともに、その条件を満たす運動のまとまりを表現することができるようになる。

３　生徒の実態
授業の対象は、男子８名（１年５組５名、１年６組３名）である。他のクラスに比べ人数は少ないが、意欲的取り組む生徒が多く皆元気よく授業に取り組む。

４　単元の指導計画（全３時間）
（１）面の打ち方と打たせ方
（２）胴の打ち方と打たせ方【本時１時間】
（３）小手の打ち方と打たせ方

５　本時の評価規準

項目	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 運動の技能	D 知識・理解
内容		胴を打突する際に、どの部分をねらって打てばよいのか。竹刀と防具の特性を踏まえて、その理由を説明することができる。	胴を打突する際に、刃筋正しく十分な強度で打突することができる。	

６　本時の計画
（１）目標

防具と竹刀の特性を理解した上で、有効打突となる胴打ちとは何かを予想し、仲間と考えて実践する。

（２）展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 10 分	①胴と垂れを装着する。 ②礼法（座礼）を行う。 ③本時の学習課題を把握する。	①特に胴の腰紐が縦結びにならないようお互いに確認させる。 ②左座右起と起踞を意識して行わせる。	
	学習課題：「一本」になる胴の打ち方とはどんな打ち方だろうか？		
展開 30 分	具体的発問①：胴を打つ際にどのように竹刀を操作すればよいだろうか？		
	④木刀を用いて胴の打ち方について考えてみる。	④「木刀による剣道基本技稽古法」を用いて考えさせる。	
	具体的発問②：胴を打つ際にどこをねらって打ち込めばよいだろうか？		
	⑤竹刀を用いて胴の打ち方について考えてみる。 ⑥「木刀による剣道基本技稽古法」の１本目と５本目を、竹刀を用いて行う。	⑤実際に胴を打ち、お互いに打たれた感想により意見をまとめさせる。 ⑥特に５本目では、面の起こりを逃さず打ち込むことを意識させる。	【B 評価】 グループ間の巡視と対話
本時の振り返り 15 分	⑦胴打ちをお互いに発表し合い、本時の振り返りを行う。	⑦お互いに評価し合い、感想を述べさせる。	【C 評価】 実技発表と相互評価

平成２９年度　横手高校公開研究授業

研究協議会記録（保健体育科）

体育科主任　　押切　信人

平成２９年１１月１３日（月）に本校において保健体育科の公開研究授業が実施され、１１月１４日（火）１校時に研究協議会が開催された。報告は次のとおりである。

Ⅰ　日　程

【研究授業】　　１１月１３日（月）

１４：３５～１５：３０（６校時）　　於：武道場

・「武道」　加藤　辰（柔道）　　目黒　大祐（剣道）

対象　　１年５・６組（男子）

【研究協議会】　１１月１４日（火）

８：４０～　９：３５（１校時）

Ⅱ　授業者からの報告・反省

【　柔　道　】

柔道に授業では、柔道授業選択生徒全員が中学校段階で柔道授業を選択していたことから、前時に既習技である背負投・大腰を中心に復習を行い、本時の受・取の役割や崩し等の基本動作の習得の教材として活用した。生徒の考える事を最優先に授業を行い、その観点から発問・環境設定等を行った。生徒は３人組で客観的に施技を観察して自由に意見を交換できるようにした。また、本クラスは柔道選択者が多く、道場の広さから怪我防止の観点でも３人組にすることに意義があったと思う。技そのものの上達には班で差が見られたが、始業時はただ漠然と技を受けていた受側の意識の変化が見て取れた。これによる今後の施技向上も期待できると思われる。生徒の思考する時間が技能向上に繋がることが分かったが、今後は活動時間をいかに確保し生徒に充実した活動の場を提供するかが課題だと感じた。

【　剣　道　】

今回の授業では、胴の打ち方と打たせ方を行った。本時に至るまで、木刀による剣道基本技稽古法を基本１から基本５まで行ってきており、打突の所作等は習得済みである。木刀で行っていた動作を竹刀に置き換えて、実際に防具を打つとどのような力加減や動きになるのかを体感し、自分の打突をより有効打突に近づけていくことが本時のねらいである。

グループでよく意見交換や試技を行っており、活発なグループ学習が行われていたと思う。また、最後の実技発表の時も、他者への感想にとどまらず、改善点や問題提起などもたくさん出され活発な意見交換が行われていた。中盤に胴に付けた目印が見にくかったので、もっと黒胴に生える目印を用意すべきだったと感じた。

Ⅲ　参観者からの感想

【　柔　道　】

・背負い投げのポイントをおさえ、的確に学習課題の意識付けがされていたと思う。

・実際の投げの練習が始まって不慣れ感もあったが、すぐに怪我等への配慮の注意があり、よかった。また、最初と最後の挨拶はさすが武道だけあってしっかりとなされ、清々しさとともに、精神性を大事にしている様子がうかがえた。

・見学者への対応や指示が丁寧で、見学者も授業に参加できていた。

・生徒が動く方向を統一することで、空間の有効な活用と怪我防止に細心の注意を払うことができている。

・投げる側だけでなく投げられる側への注意や、上手くできたら褒めることばをかけることで、生徒の意欲が高まっていると感じた。

・前回休んでしまった生徒にも、先生がフォローしたり生徒同士で教え合ったりしていて、大変よかった。

・授業の途中途中で小さな振り返りが行われ、最後に大きな振り返りが行われている印象であった。生徒も非常にわかりやすかったと思う。

【　剣　道　】

・少人数の分細やかな指導ができていた。木刀を使うというのは自分の経験ではなかったため、大丈夫かと心配になりましたが、太刀筋を強く印象付けさせるには有効だと思った。

・野球選手の例えを使い、生徒がイメージしやすい表現をしていて参考になった。

・具体的発問のところで、生徒の答え方や、表現の仕方を引き出すような声かけが非常によかった。

・本時で行うこと、ねらい、身につけるべきことなどひとつひとつ丁寧に示されていて、生徒たちも興味をもって授業に集中できていたと思う。

・感覚的に生徒たちが行ってしまいそうなところを、どのように竹刀をふるのか、どこを狙って打つのがよいのか、竹刀のどこで打つのがよいのか明確にすることができていたので、生徒たちの面や胴、小手がどんどんよいものになっていた。

・ポイントを確認しながら組で打ち合うなかでしっかりと振り返りが行われていた。前回の授業と次回の授業との関連も見える化されていて、振り返ることで、自分自身の成長も感じられるようになっており、次回の授業への意欲も喚起されていた。

芸術科（美術Ⅰ）学習指導案

日　　時　　平成２９年１０月３１日（火）２校時
実施場所　　秋田県立横手高等学校　美術室
対象生徒　　１年６組１７名（普通・理数科　男子８名、女子９名）
教 科 書　　美術１（光村図書）
指 導 者　　杉渕　拓夫

１．単元名　抽象版画挑戦

２．単元の目標

①「抽象」の意味を正確に捉え、自分の作品制作や様々な作品の鑑賞に活かせる目を養わせる。

②「美の発見」「遊び」「偶然性」をキーワードに木版画の技術・方法・知識の再確認と抽象画制作を実践させる。（美の発見：自分の意図しない作品に美を見出す力、遊び・偶然性：作業の中に不確定さを盛り込み、問題に対応・解決する力）

③木版画の４時間の作業を「起・承・転・結」で構成し、生徒に作業の変化を与え工程のメリハリと集中力を意識させる。また、「仕上げ」の時間を設け、他者に向けてどう提示すればよいかを意識させる。

３．生徒の実態　　学力の高い生徒が多く、興味関心を持って授業に臨み、意欲的に学習課題の習得を目指そうとする姿がよく見られる。だが、発展的、応用的な思考や判断にはいささか強化の必要性が感じられる。モノ作りは楽しみながら作業できる。

４．単元の指導計画

（起）　抽象の確認、テーマカラーの決定、イメージの視覚化　（１時間）
（承）　版木の制作、試し刷り　（１時間）本時
（転）　本刷り（２枚）、くじ引きで相手を決め作品贈与　（１時間）
（結）　貰った作品に自分の版を重ね刷り、構図の検討およびハガキ大に切り抜き　（１時間）
（仕上げ）台紙を選び作品を張り付け、カード記入、観賞と評価　（１時間）

５．本時の目標

①転写の仕組みを理解し自分の行う方法を選択し実施する。

②限られた時間内に作業が終了できるよう計画し、経験した知識や技術を活かして版木を完成する。

③次時で速やかに作業が進むよう試し刷りをし、絵の具の量や濃度、刷り方を工夫する。

６．本時の評価規準

項目	ア．美術への関心・意欲・態度	イ．発想や構想の能力	ウ．創造的な技能
内容	美術の創造活動を楽しみながら、主体的に作業に取り組んでいる。	感性や想像力、過去の学習体験を働かせ、版木の完成と試し刷りができている。	版木の性格を的確に把握し、自分の思う表現ができるよう彫り方を工夫している。

７．本時の展開においてキャリア教育の視点から特に重要なこと

（課題対応能力）　与えられた条件の中でいかに全体の作業と自分の技術を把握し、自己の表現を追究できるかを学習する。また、自己の学習体験を活かし未経験の作業にどう対応すればよいかを考え作業工程を構想することを学習する。

８．本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点及び方法
導入 ５分	○本時の作業の進行説明		しっかりした態度で説明を聞き作業の進行を理解することができる（ア：観察）
展開Ⅰ ３０分	○下描きの転写 ○版木作り	過去の学習を思い出させ転写の仕組みを理解させる 作業にかかる時間を想像させ、どのように進めれば時間内に終わるかを意識させる 過去の学習から彫刻刀の彫り後でどのような刷りができるのか意識させる	転写の仕組みを理解し実践できる（イ：観察） 時間を意識し的確な作業ができる（イ、ウ：観察）
展開Ⅱ １５分	○試し刷り	自分の作品の完成予定を想像しながら、版の状態（彫りの浅深）や乗せる絵の具の量、濃度、刷り方を工夫させる	時間を意識し的確に作業し刷り方の工夫ができる（イ：観察）
振り返り ５分	○まとめ ○次時の説明	全体の作業を想像し次時の作業や自分の課題を把握させる	本時の作業を把握し、自分の課題に対して的確に作業し工夫できる（ア：提出物）

平成２９年度横手高校公開研究授業

研究協議会記録（美術）

芸術科美術　杉渕拓夫

平成２９年１０月３１日（火）本校において芸術科美術の公開授業が実施された。研究協議会は授業参観者の日程調整がつかず実施できなかったので、授業者からの報告と検証を述べさせていただく。

Ⅰ　日程

【研究授業】　　１０月３１日（火）　９：４５～１０：４０（２校時）　於：美術室
　　１６組　美術Ⅰ「抽象版画挑戦」

Ⅱ　題材について

５時間で抽象作品を完成させ鑑賞を行うという実験的な題材で、少しずつ改良を加えながら４年間継続して行っている。その変遷は下に記すが、「偶然に対応する力（問題発見能力・問題解決能力）」「美の発見」を変わらずテーマに据えて実践している題材である。

《抽象版画挑戦の制作手順の変遷》

○平成２６年度　①目をつぶって選らんだ色のイメージを形に置き換え、それを版木に写す。
（偶然性：自分の意思の入らない状況でどう対応するか）
（イメージの置き換え:色の持つイメージを簡単に把握し描く→抽象画）
②選んだ色を使って画用紙に刷る。
③くじを引き引いた番号の席にいる生徒に作品を預け、作品の上に重ねて刷ってもらい返却。
（「くじを引かせること」「重ねて刷ること」で再度偶然性を設ける）
（「重ねて刷ること」で自分が意識しない美を発見できるかをねらった）
※作品の完成形態は生徒に明かさず、また、上記の制作手順はその都度説明。（このルールは変更せず４年実施）
→・偶然に対応する力の育成。
・先の見えないことによるゲーム感覚の面白さの実感。

○平成２７年度　②までは同じ
③くじで引いた番号に対応した生徒に作品をあげる。もらった作品の上に重ねて刷り作品完成。
（前年、他人の作品だと遠慮してあまり重ねない生徒が多かったため変更した）
④色画用紙を選び作品を貼り付け、タイトルをつける。（展示を意識させる）

※高教研美術部会の研究授業として③部分を実施し参観者の方々から様々な意見をいただいた。それを元に変更案を考えた。

○平成２８年度　②までは同じ。（ただし、作品は２枚完成させる）

③くじで引いた番号に対応した生徒に作品を１枚あげる。もらった作品の上に重ねて刷る。

（自分の作品が手元に残らないのは嫌がるのではという意見により変更した）

④色画用紙を選び、自分の版だけの作品と重ねた作品を１つの作品として配置し貼り付ける。タイトルを考える。

⑤グループに分かれその中でお互いプレゼンし合い代表作品を決定。その後クラス内で人気投票を行う。

（自分の見方と異なる見方・価値観を鑑賞で確認させた方が良いという意見により変更した）

○平成２９年度　④までは同じ。

⑤グループに分かれその中でお互いプレゼンし合い代表作品を決定。その後クラス内で人気投票を行う。作品紹介は各グループで代表作品を一番推していた者にやってもらう。

（他者の作品の良さを理解し、その良さを自分の言葉で伝えることができることを期待し実施した）

Ⅲ授業者よりの報告

公開研究授業は次ページの「４．単元の指導計画」の「承　版木の制作・試し刷り」の時間である。最も見応えのない段階であったが、彫刻刀の使い方の再確認や版木の削るコツなど既知の見直しや改善が見込まれる箇所である。授業開始時には生徒各自に作業にかかる時間を意識させていたが、ほとんどの生徒は授業後半の試し刷りに入ることができず、経験から得た時間配分と自分の技術力との差異を感じたと思われる。「思ったように上手くいかない（問題）」を感じ「どうすれば上手くいくか（問題解決）」を話し合う姿や版木の裏面で彫りの練習をする姿が見えた。また授業時数を変更することはないため、次時の授業内で遅れを取り戻すための作業計画の変更（問題解決）を考える必要も出て、頭を働かせないといけない状況も作り出すことができた。

（授業のポイント○と改善案●）

○スピーディーな作業：短時間で達成感を得られる、計画性の強化、既知の再確認・見直し

○計画性の出来不出来　（出　来）：計画性の強化、想像力の強化

（不出来）：偶然に対応する力、計画性の見直し、想像力の育成

●作業計画書の必要性：自分の予想とどの程度差があるのか把握できる　ただし、その作成の時間はあまりないため作成のタイミングと様式は工夫が必要

●技法の多様性を促す参考資料の工夫

高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて

英語科　　大塚　のぞみ

Ⅰ　はじめに

教職年数１１年目を迎え、日々の授業改善の必要性はもちろん、中堅教諭として学校組織全体を意識して日頃の業務に当たる必要性を強く感じる。今回の研修では、中堅教諭として自分に足りない能力を自覚するとともに、その克服に向けて努力したいと思い、各研修に臨んだ。

Ⅱ　各研修について

（１）校内研修

はじめに、研修に向けての心構えについて校長先生からご講話いただき、その後、教頭先生からは法規に関する事例研究について、教務主任からは教育課程と評価のありかたについて、生徒指導主事からは生徒の問題行動に関する事例研究について、進路指導主事からはキャリア教育についてなどをご教授いただいた。その中でも、教務主任からお話頂いた教育課程については、新学習指導要領導入後の各学校におけるカリキュラムマネジメントの重要性についてお話いただきとても勉強になった。

英語科主任からは、授業実践に関する具体的なご指導とともに、これからの大学入試改革や新学習指導要領導入に伴い、高校における英語教育に何が求められているかなどについてお話し頂いた。

（２）校外研修

①共通研修

・Ⅰ期【平成２９年６月３０日（金）実施】

センター所長の西聡先生からは、教員は身分が保証されている分、全体の奉仕者として全力を挙げて職務に専念する必要があることについて改めてお話があった。

秋田大学の阿部昇教授からは、主体的･対話的な授業を創り出すために必要な力として、教材研究力･目標設定力･授業構築力の３つの力の重要性についてお話があり、自分の授業への取り組みについてとても勉強になった。

工藤正孝教育専門監からは、学校における危機管理についてお話があり、初期対応の仕方や、Danger Sense を高め事件･事故を未然に防ぐことの大切さについてお話があった。

最後は高校の先生方だけのワークショップを行い、教師として必要な能力について話し合いを行い、それに基づき今年度の自己目標を設定した。話し合いの中では、自分の視点にない様々な考え方について知ることが出来、大変参考になった。